

宮城県考古学会中近世部会活動報告

2022年9月6日

宮城県考古学会中近世部会

及川謙作

森田義史

令和4年9月3日（土）13時30分から、仙台市の陸奥国分寺ガイダンス施設にて中近世部会研究会を実施しました。

研究発表として

- ・川後のぞみ（仙台市文化財課）
「陸奥国分寺鐘樓の解体調査の成果について」
- ・庄子裕美（仙台市文化財課・宮城県考古学会会員）
「陸奥国分寺鐘樓基礎部分の発掘調査の成果について」
が報告されました。

川后氏からは鐘樓の部材に残る痕跡や材木の樹種、放射線炭素年代測定結果から、建立が伊達政宗以前に遡る可能性や、地域住民が用材の提供に関わったのではないかと、という推論が示されました。

庄子氏からは鐘樓の基礎部分の発掘調査成果を踏まえ、古代国分寺の礎石を再利用していることや、現在の鐘樓基礎が18世紀以降のものであることが明らかにされました。礎石の石材や柱座の位置付けなどは、その後の質疑でも活発な議論が交わされました。

また、柴田町の畠山未津留氏が持参した、町内の遺跡から出土した中近世の遺物の検討会も行われ、新たな知見が得られました。

会場に12名、オンラインで6名の参加がありました。
次回は現地見学も含めた研究会ができればと考えております。

